

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：22604

研究種目：学術変革領域研究(B)

研究期間：2020～2022

課題番号：20H05719

研究課題名(和文) 観想修道院による「典礼空間」の形成に関する総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive research on the formation of a liturgical space by contemplative monasteries

研究代表者

大貫 俊夫 (Ohnuki, Toshio)

東京都立大学・人文科学研究科・准教授

研究者番号：30708095

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,800,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトは、9世紀から13世紀前半にかけて観想修道院が生み出した諸メディアの分析を行い、それにより形成された「典礼空間」の特質を明らかにしようと試みた。歴史学、美術史学、文学の3分野から修道士によって生み出された多種多様なテキストと図像を相互に比較しながら共同研究を行うとともに、他の研究班とともにシンポジウムや国際学会のセッションを構成した。班独自の試みとして特筆すべきは公開セミナー「アクアマニーレと典礼空間の形成」(2021年10月30日)であり、盛期中世ヨーロッパに普及したアクアマニーレ(水差し)がどのような価値観と世界認識の仕方を宗教生活にもたらしたのかを検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中世ヨーロッパにおける社会のキリスト教化の過程を理解する上で、本プロジェクトが掲げた「典礼空間」という概念は大変有用であることが明らかとなった。この概念に、歴史学、美術史学、文学という人文学3分野が取り組むことで、従来それぞれのディシプリンによって個々に分析されてきた多種多様なテキストと図像の相互比較が可能となった。アクアマニーレに関する公開セミナーは、今後この「典礼空間」研究をさらに深化させるために重要なモデルケースになるに違いない。

研究成果の概要(英文)：This project analysed the various media produced by the contemplative monasteries from the 9th to the first half of the 13th century, and attempted to clarify the characteristics of the 'liturgical space' formed by these media. The project conducted joint research by comparing the various texts and images produced by the monks from the three fields of history, art history and literature, and organised symposia and international conference sessions together with other research groups. One of the group's original attempts was the public seminar 'Aquamanile and the Formation of Liturgical Space' (30 October 2021), which examined what kind of values and ways of perceiving the world were brought to religious life by the aquamanile (jug) that prevailed in medieval Europe during the High Middle Ages.

研究分野：西洋中世史

キーワード：ヨーロッパ中世 観想修道院 典礼 メディア 写本 ベネディクト修道院 シトー会

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

ミリス(『天使のような修道士たち』、2001年)によると、ラテン=キリスト教社会のキリスト教化は3段階に分けられる。古代末期から初期中世にかけて宣教により改宗者が増加し(第1段階)、9~13世紀前半にはキリスト教の典礼(儀礼)と慣習への身体的な適応が進展し(第2段階)、そして第4ラテラノ公会議(1215年)における信徒の告解義務化を経て信仰の内面化が完成した(第3段階)。このうち本計画研究が扱う第2段階を視野に入れた最新の研究は、ロウエルス(M. Lauwers, *Naissance du cimetière*, 2005)の「インエクレスシアメント ineclessiamento」論である。それによると、初期中世から教会や修道院の聖堂・墓地が「聖なる空間」となり、死者を管轄下に置くことで生者の社会的慣習への関与を強め、結果として人口集中が見られたという。その過程に大きく寄与したのが観想修道院における典礼改革である。ヨーロッパ各地の修道院で典礼が精緻化され、またその規模が一気に増加していった。典礼改革に対応する形で修道院建築にも装飾が増え、聖性を強めてゆく。そこで導かれる問いが、「9世紀以降に進展した典礼改革は観想修道院が生み出した諸メディアの中でどのように表現され、またどのような革新性があったのか」、そして「この典礼改革はヨーロッパ社会のキリスト教化にいかなる影響を与えたのか」の2点である。

2. 研究の目的

観想修道院は9~13世紀前半にかけて、今日のカトリック教会にまで通じる典礼文化を構築した。日々刷新を伴いながら実践される典礼、修道院の写字室で制作された戒律や典礼書などの文字テキストと彩飾写本、新たな意匠で装飾が施された修道院聖堂。本計画研究はこれらを総合して観想修道院を「典礼空間」と規定し、美術史家パラッツォが切り開いた地平をさらに発展させるべく、この「典礼空間」の具体的内実と変遷過程を明らかにする。

そこで本研究は、修道規則とその注解、証書、書簡、歴史叙述、文学作品、写本彩飾、聖堂装飾を修道院内外でのコミュニケーションを促進するためのメディアとしてとらえ直し、(1)観想修道院で生み出されたテキストと図像を付き合わせながら、いかなるメディアが、いかなる目的で、誰を対象として創出されたのかを具体的に分析し、(2)聖書、聖書注解書、典礼書などを参照しつつ、個々のメディアの表現方法や内容が典礼の発展といかに関係していたのかを考察することで「典礼空間」の特質を解明し、(3)この「典礼空間」が社会のキリスト教化と社会統合に及ぼした影響を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は、9世紀から13世紀前半までヨーロッパでキリスト教修道制をリードした観想修道院が生み出した諸メディアの分析を行い、そこで形成された「典礼空間」の特質を明らかにする。研究方法の最大の特徴は、歴史学、美術史学、文学という人文学3分野の専門家が参画することで、修道士がメディアとして活用した多種多様なテキストと図像の相互比較が実現する点にある。研究に参画するメンバーと各自の研究内容は以下の通りである。

大貫俊夫(研究代表者、盛期中世のシトー会における典礼改革と司牧の関係)

菊地重仁(研究分担者、初期中世の修道院における修道院長、修道士の諸活動と価値観の形成)

安藤さやか(研究分担者、初期中世の彩飾写本が果たす役割)

金沢百枝(研究分担者、ロマネスク美術のうち主に彫刻を典礼との関係で再解釈)

山本潤(研究分担者、中世ドイツの『ニーベルンゲンの哀歌』等の英雄叙事詩)

4. 研究成果

2020年度は、研究代表者と研究分担者が計画に沿ってそれぞれの研究を進めた。コロナ禍により当初予定していた海外資料調査は実現しなかったが、成果報告の場として研究会を2回にわたりオンラインで開催し、第1回は安藤さやか「カロリング朝期の装飾イニシアル 様式展開と典礼における機能」、大貫俊夫「シトー会における歴史叙述と典礼 研究の方針を中心に」、第2回は金沢百枝「ロマネスク美術と典礼」、菊地重仁「カロリング期における修道士共同体と「壁の外」」、山本潤「中世ドイツ語叙事詩の教化的機能」の各報告が行われた。また、繰越分の使途として海外資料調査を想定していたが、これも引き続きコロナ禍により実現しなかった。しかし、これを活用してReMo研公開セミナー「アクアマニーレと典礼空間の形成」を計画し、本計画研究班からは金沢百枝、大貫俊夫、山本潤が、そして日本中世寺社班からは苅米一志が報告・コメントの準備を進めることができた。

2021年度および繰越分の2022年度の活動は、主に以下の諸点に要約することができる。

【シンポジウムへの参画】本研究班から、安藤さやか「西欧初期中世典礼書写本の装飾イニシアル *Te igitur* と *Vere dignum* のモノグラム化」、林賢治「書物の受容と修道院のアイデンティティ ゼッカウ修道院 (Stift Seckau) の書物係ベルンハルトの足跡 (1140-1184/85) を追って」、山本潤「ドイツ語圏英雄伝承の教化素材化 ニーベルンゲン伝説およびディートリヒ伝説を題材に」の報告が行われた。これらは今後論文として刊行される予定である。

【合同研究会の実施】ReMo 研公開セミナー「アクアマニーレと典礼空間の形成」を実施し、本研究班からは金沢百枝、大貫俊夫、山本潤が、日本中世寺社班からは苅米一志が報告・コメントを行った。

【研究会の実施】5 回にわたりのべ 7 名が研究報告を行った。

2022 年度および繰越分の 2023 年度の活動は、主に以下の諸点に要約することができる。

【最終成果物の刊行】英語論文集“Pastoral Care and Monasticism in Latin Christianity and Japanese Buddhism (ca. 800-1650)” (LIT Verlag, 2024) と日本語論文集『修道制と中世書物：メディアの比較宗教史に向けて』(八坂書房、2024 年)の刊行にあたり班から論文を寄稿した。

【国際カンファレンス、国際学会等への参画】2022 年度のワークショップ「ラテン・キリスト教と日本仏教における「もつれた修道制史」を目指して」、2023 年度の国際カンファレンス“Transcending the Tangibility and Intangibility: Religion and Media in Pre-Modern East and West Eurasia”、2022 年と 2023 年の International Medieval Congress のセッションに参画した。

【合同研究会、研究会の実施】班として研究会を実施し、研究報告をもとに議論を行った。

以下、本計画研究が主体となって実施した ReMo 研公開セミナー「アクアマニーレと典礼空間の形成」(2021 年 10 月 30 日)の趣旨と各報告内容を研究成果として詳述する。

趣旨：歴史、美術史、文学という人文学の主要ディシプリンひとつの共通テーマに取り組む、という点に本プロジェクトの特徴がある。そこで、盛期中世ヨーロッパに普及したアクアマニーレ(水差し)に着目し、ひとつの「メディア」をめぐる人文学の協働の場を創出したいと考えた。アクアマニーレは、典礼中に手を洗うために用いられる水を入れる器 (manile, vas manuale) あるいは水を注ぐ水差し (urceus) である。この道具は、中世後期までに動物、なかでも獅子の頭部の象徴で装飾されるようになり、水を浄化し、その意匠の持つ力を媒介するという意味で、「メディア」と言い表すにふさわしいだろう。12~13 世紀に大きく変容を遂げたアクアマニーレは、どのような価値観と世界認識の仕方を社会にもたらしたのだろうか。本公開セミナーでは観想修道会班の 3 人がそれぞれのディシプリンに基づいて報告を行い、日本中世寺社班によるコメントから刺激を受けつつ、充実した議論を行うことができた。

金沢百枝「中世盛期の Aquamanile の形態とその技法」

「アクアマニーレ」と呼ばれる青銅製の水差しは 12 世紀ドイツで誕生したとされる。獅子、竜、ケンタウロスなどから始まり、14 世紀以降には「サムソンとライオン」や「アリストテレスとその妻」など複雑な造形へと進化した。発表ではその多様さを概観した後、戦利品としてイスラーム圏でつくられた類似品との比較や、金属組成の比較から成立過程について論じた。蠟型鑄造技法を用いた立体彫刻は、古代以降、中世においては廃れていたとされるが、ヒルデスハイムの柱や青銅扉の取手など、12 世紀以前にも立体的な青銅作品が制作されており、イスラーム圏からの輸入などで渴望が高まったところ、12 世紀、ザクセンでの銅鉱山の発見と相まってアクアマニーレがドイツで多く制作されたのではないかとという予備的な研究を報告した。

大貫俊夫「シトー会におけるアクアマニーレと典礼の危機 『シトー会大創建史』の検討を中心に」

本報告は、シトー会修道院では水が実用面においても典礼面においてもきわめて重要だったことを確認したうえで、12 世紀末から 13 世紀初頭にかけて著され、『シトー会大創建史 Exordium Magnum Cisterciense』を取り上げ、アクアマニーレがシトー会典礼において中心的な位置を占める聖具だったことを検証した。シトー会は傘下修道院の間で聖具や典礼書を共有し、典礼の統一を指向していた。しかしその一方で、修道士の中にはアクアマニーレが深く関わる聖体拝領の意味を理解・受容できない者もいた。また、助修士はミサに能動的に参画することができなかった。統一を指向する修道会と、その達成を困難にする構成員とのあいだの緊張関係。この緊張関係を克服することが『シトー会大創建史』上梓の目的の一つだったのではないかと結論づけた。

山本潤「中世俗語文芸における「水を灌ぐ」行為 ハルトマン・フォン・アウエ『イーヴェイン』を題材に」

中世盛期俗語文芸には、宴の際に「水差し」から手に水を灌ぎ、それを盥で受ける洗手の場面が散見されるが、これは穢れの浄化と共に宮廷的な礼節と文化の空間への移行儀式としての意味を持つ。ハルトマン・フォン・アウエ『イーヴェイン』では、泉の傍らの桶状の石に「水差し」から水を灌ぐ行為が描かれ、それはケルト的異界空間への通路を開く。この行為は宴の際の洗手と同様の構図をもつものの、「手が洗われない」ことにより、穢れの浄化や宮廷的礼節の付与というような文脈は捨象され、「水を灌ぐ」という行為およびそこで灌がれる「水」が元来的に有している空間越境性が前景化しているものと思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 片山幹生	4. 巻 28
2. 論文標題 タイトルに見る『葉陰の劇』の重層性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Etudes francaises	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤さやか	4. 巻 51
2. 論文標題 カロリング朝期写本の物語イニシアル 基礎資料と研究動向	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 千葉大学人文研究	6. 最初と最後の頁 123-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金沢百枝	4. 巻 17
2. 論文標題 行為の詩学 アルフレッド・ジェルを手がかりに	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Art Anthropology	6. 最初と最後の頁 53-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北館佳史	4. 巻 98
2. 論文標題 聖トマス・ベケットの約束と巡礼地の誕生: ポンティニーの聖エドモンド崇敬をめぐる論争	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文研紀要	6. 最初と最後の頁 185-208
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北館佳史	4. 巻 286
2. 論文標題 オバジーヌの聖エティエンヌ伝』試訳(3)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 紀要(中央大学文学部)	6. 最初と最後の頁 39-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊地重仁	4. 巻 12
2. 論文標題 記録を残し記憶が残る：カロリング期の史料と中世におけるカロリング期にまつわる過去の想起	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西洋中世研究	6. 最初と最後の頁 2-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東京都立大学西洋中近世史ゼミ	4. 巻 49
2. 論文標題 ブルース・M・S・キャンベル『大遷移 後期中世世界における気候・疫病・社会』より第1章	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文学報(歴史学・考古学)	6. 最初と最後の頁 29-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金沢百枝	4. 巻 15
2. 論文標題 ロシアアイコンとロマネスクの扉	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 工芸青花	6. 最初と最後の頁 124-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦麻美	4. 巻 12
2. 論文標題 呪詛ではなく祝福を：マンスフェルト伯家と家門修道院ヘルフタに見る13世紀末の紛争と和解	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西洋中世研究	6. 最初と最後の頁 128-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林賢治	4. 巻 1029
2. 論文標題 12世紀の修道院における両性の共存と書物管理の様相：ギルパート会の綱要に現れる対称と非対称	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 50-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦麻美	4. 巻 51
2. 論文標題 幻視者の誕生 中世盛期ヘルフタ修道院に見る学問と回心	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 西洋史研究	6. 最初と最後の頁 27-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤さやか	4. 巻 21
2. 論文標題 Das Erbe der karolingischen Buchmalerei: Initialornamentik der illuminierten Handschriften aus Corvey	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京芸術大学西洋美術史研究室紀要	6. 最初と最後の頁 7-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本潤	4. 巻 15
2. 論文標題 「怒りzorn」と「敵意haz」：中世叙事文学に見る感情の表象するもの	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 西洋中世研究	6. 最初と最後の頁 16-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計33件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 14件）

1. 発表者名 安藤さやか
2. 発表標題 Das Erbe der karolingischen Initialenornamentik: Zierseiten der illuminierten Handschriften aus Corvey
3. 学会等名 Interdisziplinärer Workshop “Die mittelalterliche Bibliothek der Reichsabtei Corvey. Bestaende, Forschungsstand, Perspektiven (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安藤さやか
2. 発表標題 西欧初期中世典礼書写本の装飾イニシアル Te igiturとVere dignumのモノグラム化
3. 学会等名 Remo研シンポジウム2021「東西中世における修道院・寺 社の書物文化 制作・教育・世界観の変容」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大貫俊夫
2. 発表標題 シトー会におけるアクアマニ ーレと典礼の危機 『シトー会大創建史』の検討を中心に
3. 学会等名 ReMo研公開セミナー 2021「アクアマニ ーレと典礼空間 の形成」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大貫俊夫
2. 発表標題 13世紀初頭におけるシトー会による書物編纂と典礼の危機
3. 学会等名 ReMo研A01班2021年度第1回月例研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大貫俊夫
2. 発表標題 The Crisis of the Cistercian Order and Liturgy on the Eve of the Fourth Lateran Council
3. 学会等名 Research Seminar Series 2022, Institute for Medieval Studies, University of Leeds (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 片山幹生
2. 発表標題 学習者の「なぜ?」に答える、「なぜ?」を引き出す フランス語教員のための歴史文法
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会 2020 年度秋季大会ワークショップ プログラム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 片山幹生、鈴木理映子、畑中小百合
2. 発表標題 シンポジウム いま、臨界点にある演劇「現代版組踊」から、演劇と地域、教育、産業を考える
3. 学会等名 日本演劇学会2021年全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 片山幹生
2. 発表標題 ハーブと貴婦人 ギヨーム・ド・マショー『ハーブの賦』について
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会2021年春季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金沢百枝
2. 発表標題 フランス中世の写本挿絵とロマネスク彫刻 ヨーロッパの古層からの遠いこだま
3. 学会等名 芸術人類学研究所主催シンポジウム第9回「土地と力」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菊地重仁
2. 発表標題 Empire Surrounded by Seas:Carolingian Images and Perceptions of the Sea
3. 学会等名 Premodern Mediterranean Seminar, University of Southern California Dornsife, Center for the Premodern World (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菊地重仁
2. 発表標題 Authorities and Consensus Building in the Carolingian Monastic World:in a Case of a Conflict
3. 学会等名 Authority and Consent in Medieval Religious Communities, Faculty of Croatian Studies , University of Zagreb, Projekt: "Kloester im Hochmittelalter" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菊地重仁
2. 発表標題 Briefe der Geistlichen in der Karolingerzeit:Zwecke und Funktionen
3. 学会等名 国際シンポジウム「中世社会と書状 文書実践の日欧比較 」(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 林賢治
2. 発表標題 Climate and Life in the Hirsau Monasteries
3. 学会等名 International Medieval Congress 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 林賢治
2. 発表標題 12世紀の二重修道院における慣習律テキストの創出 書物係たちの試み
3. 学会等名 ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所第33回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 林賢治
2. 発表標題 書物の受容と修道院のアイデンティティ ゼッカウ修道院(Stift Seckau)の書物係ベルンハルトの足跡(1140-1184/85)を追って」
3. 学会等名 ReMo研シンポジウム2021「東西中世における修道院・寺社の書物文化 制作・教育・世界観の変容」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三浦麻美
2. 発表標題 「メヒティルトからゲルトルート ヘルフタ修道院におけるlittera」(ポスター発表)
3. 学会等名 西洋中世学会第13回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三浦麻美
2. 発表標題 Negotiating with the Neighbor: Helfta and Count Mansfeld at the End of the 13th Century
3. 学会等名 Cistercian Worlds
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三浦麻美
2. 発表標題 自由学芸から神学へ 中世盛期女子修道院における回心
3. 学会等名 西洋史研究会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本潤
2. 発表標題 「ドイツ」国民叙事詩? オーストリア文学史叙述における『ニーベルンゲンの歌』
3. 学会等名 戦後オーストリア文学研究会第2回コロキウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本潤
2. 発表標題 中世俗語文芸における「水を灌ぐ」行為 ハルトマン・フォン・アウエ 『イーヴェイン』を題材に
3. 学会等名 ReMo研公開セミナー2021「アクアマニーレと典礼空間の形成」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本潤
2. 発表標題 ドイツ語圏英雄伝承の教化素材化 ニーベルンゲン伝説およびディートリヒ伝説を題材に
3. 学会等名 ReMo研シンポジウム2021「東西中世における修道院・寺社の書物文化 制作・教育・世界観の変容」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大貫俊夫
2. 発表標題 シトー会における歴史叙述と典礼 研究の方針を中心に
3. 学会等名 ReMo研A01班研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Momo Kanazawa
2. 発表標題 The Reception of Medieval Art in Japan: the Romanesque as the art of supreme beauty for Soetsu Yanagi
3. 学会等名 International Conference “Using the Past: The Middle Ages in the Spotlight” (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菊地重仁
2. 発表標題 海域世界の中のカロリング帝国
3. 学会等名 第70回日本西洋史学会大会小シンポジウム「中世北ヨーロッパにおける海域ネットワーク、島嶼、政治権力」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shigeto Kikuchi
2. 発表標題 Vorstellungen der maritimen Welten in den karolingischen Geschichtsschreibungen
3. 学会等名 Forschungskolloquium zur Geschichte der Spaetantike und des Fruehmittelalters, Freie Universitaet Berlin (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本潤
2. 発表標題 「怒りzorn」と「敵意haz」 中世叙事文学に見る感情の表象するもの
3. 学会等名 西洋中世学会第12回大会シンポジウム「中世における感情」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shigeto Kikuchi
2. 発表標題 Authorities and Consensus Building in the Carolingian Monastic World: in a Case of a Conflict
3. 学会等名 Authority and Consent in Medieval Religious Communities, Faculty of Croatian Studies , University of Zagreb, Projekt: "Kloester im Hochmittelalter" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Asami Miura
2. 発表標題 Building a Center of Pilgrimage: St Elisabethkirche in Marburg and the Indulgence in 13th Century Germany
3. 学会等名 International Medieval Congress 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Momo Kanazawa
2. 発表標題 The Sculptural Decorations in the Cistercian Cloisters: Iconoclasm or Classicism?
3. 学会等名 International Conference "Transcending the Tangibility and Intangibility: Religion and Media in Pre-Modern East and West Eurasia" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shigeto Kikuchi
2. 発表標題 Expected and unexpected network-building: Translations of relics and their resonance in the Frankish world
3. 学会等名 International Conference "Transcending the Tangibility and Intangibility: Religion and Media in Pre-Modern East and West Eurasia" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Toshio Ohnuki
2. 発表標題 Entanglements and Self-Transformation: The Case of Cistercian Pastoral Care
3. 学会等名 International Medieval Congress 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yoshifumi Kitadate
2. 発表標題 Obazine and its Local Relationships in the Life of Saint Stephen
3. 学会等名 International Conference "Transcending the Tangibility and Intangibility: Religion and Media in Pre-Modern East and West Eurasia" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Asami Miura
2. 発表標題 A Medium for a Developing Network? Elisabethkirche and the Teutonic Order, 1235-1309
3. 学会等名 International Conference "Transcending the Tangibility and Intangibility: Religion and Media in Pre-Modern East and West Eurasia"
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 高山博、亀長洋子、菊地重仁、大貫俊夫他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 648
3. 書名 中世ヨーロッパの政治的結合体：統治の諸相と比較	

1. 著者名 ウィンストン・ブラック、大貫俊夫	4. 発行年 2021年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 380
3. 書名 中世ヨーロッパ：ファクトとフィクション	

1. 著者名 西山雄二、大貫俊夫	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 いま言葉で息をするために：ウイルス時代の人文知	

1. 著者名 小森謙一郎、片山幹生	4. 発行年 2022年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 319
3. 書名 人文学のレッスン：文学・芸術・歴史	

1. 著者名 日比野啓、片山幹生	4. 発行年 2022年
2. 出版社 森話社	5. 総ページ数 288
3. 書名 「地域市民演劇」の現在 芸術と社会の新しい結びつき	

1. 著者名 Shigeto Kikuchi	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Harrassowitz	5. 総ページ数 1048
3. 書名 Herrschaft, Delegation und Kommunikation in der Karolingerzeit. Untersuchungen zu den Missi dominici (751-888)	

1. 著者名 甚野尚志、林賢治	4. 発行年 2021年
2. 出版社 知泉書館	5. 総ページ数 364
3. 書名 疫病・終末・再生 : 中近世キリスト教世界に学ぶ	

1. 著者名 松本悠子、三浦麻美	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央大学出版部	5. 総ページ数 528
3. 書名 歴史の中の個と共同体	

1. 著者名 三浦麻美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 八坂書房	5. 総ページ数 444
3. 書名 「聖女」の誕生 : テューリンゲンの聖エリーザベトの列聖と崇敬	

1. 著者名 スザンナ・イヴァニッチ、金沢百枝監修	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京書籍	5. 総ページ数 256
3. 書名 CATHOLICA カトリック表象大全	

1. 著者名 Toshio Ohnuki, Gert Melville, Yuichi Akae, Kazuhisa Takeda (eds.), Shigeto Kikuchi (author)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 LIT Verlag	5. 総ページ数 280
3. 書名 Pastoral Care and Monasticism in Latin Christianity and Japanese Buddhism (ca. 800-1650)	

1. 著者名 大貫俊夫・赤江雄一・武田和久・苅米一志編、林賢治・山本潤著	4. 発行年 2024年
2. 出版社 八坂書房	5. 総ページ数 416
3. 書名 修道制と中世書物 メディアの比較宗教史に向けて	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ReMo研 中近世における宗教運動とメディア・世界認識・社会統合 https://religious-movements.com

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	菊地 重仁 (Kikuchi Shigeto) (80712562)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金沢 百枝 (Kanazawa Momo) (10548001)	多摩美術大学・美術学部・教授 (32640)	
研究分担者	安藤 さやか (Ando Sayaka) (90807504)	東京藝術大学・大学院美術研究科・研究員 (12606)	
研究分担者	山本 潤 (Yamamoto Jun) (50613098)	東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・准教授 (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	片山 幹生 (Katayama Mikio) (50318739)	大阪公立大学・大学院文学研究科・研究員 (24405)	
研究協力者	北舘 佳史 (Kitadate Yoshifumi) (32641)	中央大学・文学部・兼任講師 (32641)	
研究協力者	林 賢治 (Hayashi Kenji)	フライブルク大学・Historisches Seminar・博士課程	
研究協力者	三浦 麻美 (Miura Asami)	中央大学・人文科学研究所・客員研究員 (32641)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 国際カンファレンス "Transcending the Tangibility and Intangibility: Religion and Media in Pre-Modern East and West Eurasia"	開催年 2023年 ~ 2023年
国際研究集会 International Medieval Congress 2022 session "Transcending and Constructing Religious Spaces: Pilgrimage in Medieval Japan and Europe"	開催年 2022年 ~ 2022年
国際研究集会 International Medieval Congress 2023 session " 'Entangled' Monasticism in Medieval and Early Modern Christianity: A Comparison with Medieval Japanese Buddhism"	開催年 2023年 ~ 2023年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ドイツ	ドレスデン工科大学			
英国	リーズ大学			
ベルギー	ヘント大学			